

電気通信大学「政治学B」配布レジュメ

水曜5限（16：15～17：45） A201教室 講師：米山忠寛

後期第04回：2023年10月25日（水） 遠隔オンライン実施

来週11月1日は学友会総会のため講義実施はないです。

「議会」

（前回の復習）

◎選挙向けのアピールか、法案の内容修正か。求められる役割が全く違う。

◎審議未了廃案と会期日数の睨んでの攻防。

<時事問題・コラム>

講義追記：

河野太郎は大臣だけだった。政調会長との違い。

河野太郎「部会でギャーギャー」発言・・・若手議員の反発があったのはなぜか。

（前回の続き）

○毎回の国会の会期では、たくさんを決めないといけない。たくさん法案が提出される。どれを優先させようか、どんな順番で審議しようか。それを決めるのが「議院運営委員会」、そして各党の「国会対策委員長」が方針を示す。そこで議院における審議の手順について各党の意見をまとめる。（重要法案と、あまり重要ではない法案に分けて準備をする）。

〔与党：賛成〕〔野党：賛成〕 の法案

〔与党：賛成〕〔野党：反対〕 の法案

○与野党双方が賛成している法案と、意見が激突する法案がある。野党としては内心では賛成している法案（「枕法案」とも言う。「与党と野党が対立する重要法案に先行して審議される法案のこと」）に時間を掛けて、重要な意見の対立する法案を後回しにして時間切れにさせようとする。（枕を準備したら「寝る」＝引き延ばしに入る）（与野党が対立する法案については大臣の答弁が不十分などと理由を作っては「審議拒否」を行って時間稼ぎなど。）

○野党は少数派なのだから「否決」するのは大変。その代わりにじっくりと「審議」を求めることで、紛糾しそうな法案などは撤回させることができる。

<3. 議会と政党 政策を作っているのは誰？ 政治家？官僚？>

○日本は官僚優位と言われてきた（近年は顕著に変化してきている）。かつては

「大臣は馬鹿でも官僚がしっかりしていれば良い」（→ただ最近は大臣も実力主義に）

- ・ただ「官僚優位」と言われていた時期にも与党が無力だったわけではない。ポイントは「与党の事前審査」

○この事前審査の歴史的成立経緯について扱った研究書が最近刊行された。奥健太郎・河野康子編『自民党政治の源流 事前審査制の史的検証』（吉田書店、2015年）。日本政治についてのレポート課題などに参考文献としてお薦め。

- ・議会で審議をする前に与党の内部で官僚などから説明を聞いて、事前に内容の修正などを済ませておくこと。与党は政府内閣を支持する立場なのだから、審議が始まってから対立することがない様に、事前に意見を言う機会が得られるということ。

○その前提となるのが、「党議拘束」・党の決定に議員は従う。～発想は団体戦。

- ・・・従わない場合には罰則や党からの除名処分なども。ただアメリカでは緩い。アメリカ型では何人か裏切ってもまだ問題ない（大統領は別にいる）。

イギリス型では常に一体でないと「内閣不信任」で内閣が倒れてしまう。

- ※日本は党議拘束が強い。時間制限が厳しいこともある。

党の決定に従う代わりに、事前に党の方針決定に意見を言える様にしている。

「法案の形成過程」・・・「新しい法律が必要だ！」ということになったら、

(省庁)

(与党)

(内閣)

「〇〇課－〇〇局－〇〇省」→「党政調会〇〇部会－党総務会」→「閣議決定」→

(大臣・副大臣・政務官) (部会長・政調会長・総務会長)

(国会：衆議院・参議院)

→→ [法案提出—衆院委員会採決—衆院本会議採決—参院委員会採決—参院本会議採決]

- ※省内の決定・与党の決定・内閣の決定・国会（衆院・参院）での可決

これが全部揃わないと基本的に政策（法律・予算）は実現できない。

- ※与党は政調会の事前審査で主張する。野党は国会に出て来てから主張する。

○2020年前後の自民党では、

内閣部会・国防部会・総務部会・法務部会・外交部会・財務金融部会・文部科学部会・

厚生労働部会・農林部会・水産部会・経済産業部会・国土交通部会・環境部会

(政調会長：岸田文雄や高市早苗) 萩生田光一 (政調会長＝政務調査会長)

- ※2017年の内閣改造では、岸田文雄外相が外務大臣から政調会長に転じた。

本人の希望が採用されたとされる。つまり外務大臣よりも政調会長になりたかった。

岸田氏が首相後継候補になるための準備とされる。(ただ岸田氏はその後は選挙を

担当する幹事長も経験したかったようだが、・・・。)

- ※なぜ重要閣僚の外務大臣よりも政調会長になりたがったのか？

解党前の民進党の場合は、名称は「部門会議」としていたが、こちらも
内閣部門会議・財務金融部門会議・総務部門会議・厚生労働部門会議・（以下略）
と各省や国会の委員会に対応している。

○2009年の政権交代後の民主党では小沢一郎幹事長の方針で政務調査会を廃止。
なぜ？ イギリスと同じ様に大臣・副大臣・政務官の「政務三役」が各省で政策を
まとめるべきだと考えたから。一つの方針としてはあり得る選択。（ただ、そうす
ると当選した小沢チルドレンの議員達はすることがなくなって不満も発生した
とのこと。）（※その後小沢氏の失脚・離党により、また政策調査会が復活。）

○戦後にアメリカから「常任委員会制度」が導入されて「委員会主義」が採用された
ことで、日本の国会はイギリス・アメリカのごちゃまぜの様にもなっている。イギ
リスや戦前の日本では本会議中心主義。

○この長いプロセスの中で政策（法律・予算）ができていく。たまに質問があるのが
「議員は普段何をしているの？」「大物議員って何が違うの？」という疑問。
また政治学をちゃんと勉強していないと、
「議員は国会が仕事の場所なのに居眠りするなんて許せない！」という人も。

実際にサボっている人も、役人に任せる人もいるのは確かでしょうが、ただ、議員
によっては上記の他のプロセス（国会以外の所）で仕事をしている人もいるわけ
で（党内の部会など）その人達にとってはそこで意見を反映させられるかが一番大事
になる。（小沢一郎氏などは政策作りには関わっても、本会議や委員会にはほとんど
出席していないとのこと。）

○省・党・内閣で法案が決まれば、委員会で揉めたり与党から裏切り者が出ない限り
は可決はほぼ確実となる。だとするともう彼らの仕事は終わりなので、居眠りする
のもまあ仕方がない、とも。（皆さんにとっても「学生の本分は勉強」ではあっても
生活のすべてを講義に集中しろ、というのはやや無理な要求。）

○党の政調会（政務調査会）では、各省の政策について詳しい議員が省庁・官僚から
情報をもらい、政策に強くなっていく。場合によっては官僚よりも詳しい政治家も。

- ・良く言えば「政策に強い」、悪く言えば「その分野の政策を牛耳る」こともある。
それが「族議員」と言われる。建設族・農水族・国防族・文教族、など。
- ・各分野で「政治家・省庁（官僚）・業界」が「鉄の三角同盟」（トライアングル）と
言われることも。国民の利益よりも業界の利益を優先するようになる危険もある。

○その典型がアメリカ型の「変換型」議会。業界の意向などに議員が従う。

良く言えば国民の希望に応え、悪く言えば業界の意見で議会・委員会が左右される。

「この法案だけは絶対に可決して法律にして。」

「あの法案だけは絶対に否決して。」など

- ・その期待に応えるためにフィリバスター（議事妨害・長時間の演説）なども実施。アメリカ上院の記録は24時間18分の演説。その間議事はストップする。事実上議場を占拠し、止めて欲しければ交渉で譲歩して欲しいという要求。（最近は実際に演説をせずとも宣言だけでOKに。フィリバスターをストップさせるためには上院100議席中「5分の3」の60議席が必要という規定になっている。接戦の場合でなければフィリバスターはできない。）
- ・地元の利益や業界の利益のために法案を修正すればアピールにもなる。宣伝にもなり政治資金も集まる。再選（次の選挙で当選）できる可能性が高まる。
- ・そのため、アメリカの上院・下院議員でも日系企業（トヨタなど）の工場が地元にある場合とない場合で日本への態度も全然違う。日系企業があれば彼らの支持を求めて日本とも友好的になるし、逆に日系企業と競合するアメリカの地元の自動車工場がある場合にはトヨタいじめでトヨタ車の欠陥問題を厳しく追及したりもする。
- ・それらの審議の際には委員長ポストは重要。アメリカの委員会では委員長は審議の順番などに影響力を発揮できる。

〔大物議員とヒラ（一般）議員〕

○ヒラ議員にとってはまずは「再選」される様に頑張ることが重要。

ただ、首相や有力大臣を狙う場合にはそれだけでは駄目。

「地元や有権者が嫌がる政策も必要であれば通過させる」ことが大物議員の条件。（首相候補）（みんなが嫌がるけれど税金を上げる、批判はあっても防衛問題の法案を通す、地元の反対があっても補助金を減らす政策を通す、など選挙のことだけを考えればやりたくない、嫌われる政策であっても、必要であれば通過のために努力することで国全体のことを考えられる政治家であるとして信頼を得る。）

<質問カード・コメントカードへの応答>

Q「現在イスラエル軍がガザ地区に攻撃をしています。イスラエルはユダヤ人の聖地とされていて昔から問題がよく起きていますがなぜいまだに解決しないのでしょうか。」

A「イスラエルにとっては聖地かもしれませんが、他のイスラム教やキリスト教にとっても重要な土地でありますし、現地住民を追い出していればそれは恨まれるのも当然ではないのでしょうか。追い出されたり優勢なイスラエル軍に殺害されたりする中で、パレスチナや特にガザ地区の住民には恨みもありテロ活動にも向かうので、解決すると思う方がおか

しいという気がします。むしろイスラエルが出ていけば解決するのかもしれませんが。その他に周辺のイランやエジプト、シリアなどの各国の支援の思惑も絡んではいます。」

Q「どうでもいい揚げ足取りをする野党議員が話題になると、この人たちは本気でこれが国会すべき話だと思っているのだからと心配していたのですが、どうでもいいことは承知の上で、数的不利のなかでの戦略として時間を稼ぐためにやっているのだと思うと、見え方が少し変わりました。」

A「それに加えて、くだらないと思って追及しているうちに関連して大きな疑惑が発覚するきっかけになったりもするので、どうでも良くて追及しているうちに風向きが変わったりもします。」

Q「会期延期と臨時国会って何が違うんでしょうか。臨時国会は結構頻繁に開いているイメージがあるので、もし野党の妨害で時間切れになってしまっても臨時国会でまた議論すればいいと思ってしまいました。なんでわざわざ特例で会期延長したのかがわかりません。」

A「年末から年明けに翌年度の予算を中心とした通常国会があり、秋頃に臨時国会になるのが一般的でしょうか。」

その上で次の国会に廻せばよいということになっても、またそこでは一から審議を始めていくことになるわけです。臨時国会でも時間無制限ではないので与党として事前に法案の本数はいくらか絞ることにもなります。

また国会が開かれていること自体が基本的に野党にとって批判や追及の時間が長くなることになるので、記者会見を嫌がる芸能人と同じで、会期が長ければ良いということにはならないわけです。」

Q「粘着性論のお話が出ましたが、サッカーの例になぞらえるのであれば「負けではない」状況を作ることと同義かとは思いますが。しかし、それは勝ちになることは決してなく、またこのような戦略を取る時点でギリギリの状態であるとも取れます。これだけ見ると、とても長続きするとは思えない、言い換えるならこの政策を打ち立てている時点で衰退に向かっているのでは？と思うのですが、実際この政策の後長く続いた政権や体制などはあるのでしょうか？」

A「周辺環境によって現状のままが有利になるのであれば、変化をさせずに現状のままで引き分けて相手チームに勝ち点3を取らせないことが事実上の勝利に近いことも珍しくないでしょう。」

日本の国会の場合には自民党が優勢で社会党は負けていたわけですので、衰退傾向に向かったという意味では結果的にはその通りです。ですので嫌なら選挙で勝って政権交代をすれば大規模に政策変更をすることができます。それが難しい中で、国会の審議の中でどのように影響力が行使されるかという意味での評価になります。

日本と違ってイギリスの場合には政権交代が頻繁でしたので、日本の野党と違ってイギ

リスの野党は法案や政策について粘って抵抗するよりも政権交代に向けた有権者へのアピールに熱心になります。」
